

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

| 達成度（評価） |               |
|---------|---------------|
| A       | : 十分達成できている   |
| B       | : おおむね達成できている |
| C       | : やや不十分である    |
| D       | : 不十分である      |

|     |           |
|-----|-----------|
| 学校名 | 佐賀市立思齊小学校 |
|-----|-----------|

|                  |  |
|------------------|--|
| 1 前年度<br>評価結果の概要 | ・前年度、3年目の「週末作文」は、児童の「書くこと」への抵抗が減った。数値目標よりも若干低かったものの、確実に「自分の考えを書くことができる」自信につながっている。今年度は、確かな学力を身に付けさせるために、さらに校内研修や学力向上シートと連携させて重点内容を絞り、全職員で共通理解して授業で実践を進めていきたい。<br>・小中一貫教育は、中学年(5・6・7年生)の接続と、学力向上のための合同研修を充実させることができた。児童・生徒間交流として取り組んだ小中合同奉仕作業も改善を図ることができ、教育相談や特別支援教育では、合同研修、特別支援学級6年児童の中学校見学と面談、中学校教育相談担当が参加したケース会議など、連携を強化できた。今年度は、小中合同引き渡し訓練(水難訓練)を計画する。小中一貫教育の更なる推進を図り、充実した学びのほか、安心して登校できる支援・環境づくりにもつなげたい。 |
|------------------|--|

|          |                                |
|----------|--------------------------------|
| 2 学校教育目標 | 『見賢思齊』の精神で たくましく未来を切り拓く児童生徒の育成 |
|----------|--------------------------------|

|            |   |
|------------|---|
| 3 本年度の重点目標 | ① 学力向上を図る。<br>② 小中連携を推進し、生徒指導・教育相談・校内研修の充実を図るとともに、さらに安心・安全な学校を目指して体制を整える。 |
|------------|---|

|               |      |        |
|---------------|------|--------|
| 4 重点取組内容・成果指標 | 中間評価 | 5 最終評価 |
|---------------|------|--------|

| (1)共通評価項目          |   |  | 中間評価  |             | 最終評価     |             | 主な担当者     |                      |
|--------------------|---|--|---|-------------|----------|-------------|-----------|----------------------|
| 評価項目               | 重点取組  | 成果指標<br>(数値目標)   | 具体的取組   | 中間評価        |          | 最終評価        |           |                      |
|                    |   |  |   | 進捗度<br>(評価) | 進捗状況と見通し | 達成度<br>(評価) |           | 実施結果                 |
| ●学力の向上             | ○全職員による共通理解と共通実践<br>・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践と書く力の育成  | ○「書くことが楽しい」「自分の考えを書くことができる」「友達と考えを話し合える」と肯定的に回答する児童85%以上を目指す。<br>○授業や日常の中で「書く活動」「交流活動」を取り入れていると肯定的に回答した教員を90%以上にする。  | ・「書く力」を伸ばすための取組を授業や日常の生活で取り入れる。(週末作文の継続、自分の考えの表出、振り返り等)<br>・校内研究を柱に据えて、「思考力・判断力・表現力」を高める取組を実施する。(全職員で校内研究に関わる)<br>・児童のICT活用能力の向上やICTを効果的に活用した授業づくりを目指し、タブレットの活用を積極的に行う。   |             |          |             |           | 学び部<br>学力向上          |
| ●心の教育              | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動                                  | ○「安心して学校生活を送っている」と感じる児童を90%以上にする。  | ・人権集会や人権タイム、ほかほかココアの取組を実施し、自他の生命を尊重する心や他者への思いやりの育成を図り、学校全体に支持的風土を醸成する。<br>・授業参観でふれあい道徳授業を実施したり、人権タイムにおいて学年部で検討して授業を実施したりすることで、道徳の授業の充実を図る。  |             |          |             |           | 誇り部<br>道徳教育<br>人権教育  |
|                    | ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実   | ○いじめの認知、認知に係る組織的対応ができていないと回答した教員を90%以上にする。   | ・日常的な見取りや情報収集により、いじめの早期発見早期対応を行う。学年主任・管理職・SC・SSW等との連携を取りながら、組織的に児童の指導・保護者対応にあたる。<br>・児童支援協議会を実施し、全職員による対応を協議する。<br>・「月の心」「いじめアンケート」等のアンケートを毎月実施することにより、潜在的ないじめに対応する。<br>・教育相談期間で全児童と担任が1対1で話す機会をつくる。その後も相談しやすい雰囲気作りをする。<br>・Q-Uの結果を分析し、児童理解を図る。<br>・小中合同で教育相談協議会や教育相談に関する研修を行い、児童生徒理解を図る。 |             |          |             |           | 育ち部<br>いじめ関連<br>教育相談 |
|                    | ●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。  | ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上<br>●①「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上   | ・委員会活動や児童会活動等の様々な場面で児童に出番・役割を与え、承認することにより、児童の自主的・自発的活動を促す。<br>・キャリアパスポートを活用し、児童一人ひとりが将来や自分の生き方についての目標をもち、成長を振り返ることができるようにする。  |             |          |             |           | 誇り部<br>キャリア教育        |
|                    | ●郷土に誇りをもち、小・中交流や地域との連携を通してよりよい社会を築こうとする児童の育成  | ○「地域を活用し、思齊学」に取り組んだと回答する教員を80%以上にする。<br>○「小中一貫校であることを意識して教育活動を行った」と回答する教員を80%以上にする。  | ・カリキュラムマネジメントにより、地域人材の良さを生かした教育活動を、学年の目標に照らし合わせて行う。<br>・小中合同ボランティア、小中合同引き渡し訓練などの行事や中期(5・6・7年)での授業研や乗り入れ授業により、児童生徒間、教員間のコミュニケーションを密にする。<br>・児童会・生徒会活動の機会を活用し、小中の課題を解決できるように小中合同でできる活動に取り組む。  |             |          |             |           | 教務<br>小中連携           |
| ●健康・体づくり           | ●「健康に良い食事をしている」児童を85%以上にする。   | ・「早寝早起き朝ごはん週間」を実施して、自分の生活を見直す機会をもち、基本的生活習慣の定着を図る。<br>・自分の健康を維持するために、各学年に応じた栄養指導を行い、食事の大切さを学ばせる。必要に応じて、栄養職員が授業に参加する。<br>・年1回給食運営委員会、各学期に献立委員会を行い、保護者へ給食への理解を図る。 |   |             |          |             | 育ち部<br>食育 |                      |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ●業務効率化の推進と時間外在職等時間の削減<br>●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。<br>●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上 | ・定時退勤日を設定する。<br>・「例年通り」を見直し、分掌事務、行事、成績処理等の改善を図る。<br>・勤務管理システムで時間外勤務や年休取得の状況を把握し、働き方を調整する。<br>・長期休業で一定期間研修や業務を入れないようにし、年休を取得しやすいよう計画を行う。                        |   |             |          |             | 教頭        |                      |
| ●特別支援教育の充実         | ○教員の専門性と意識の向上   | ○個に応じた支援に係る取組(共通理解、保護者対応、職員研修)ができていないと回答した教員を90%以上にする。   | ・配慮を要する児童に、必要に応じて教育支援会議を行ったり、巡回相談や専門家チームの派遣を利用したりして、よりよい支援を行う。また、個別の指導計画の作成を100%とし、支援に生かす。<br>・夏季休業中に講師を招聘して発達障害児の支援に関する研修を小中合同で行う。また、特別支援学級の自立活動の授業参観及び授業研究会を行うことで、職員全体の意識を高める。  |             |          |             |           | 育ち部<br>特別支援学級        |

| (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目 |                         |  | 中間評価   |             | 最終評価     |             | 主な担当者 |             |
|----------------------|-------------------------|--|--|-------------|----------|-------------|-------|-------------|
| 評価項目                 | 重点取組内容                  | 成果指標<br>(数値目標)                           | 具体的取組  | 中間評価        |          | 最終評価        |       |             |
|                      |                         |  |  | 進捗度<br>(評価) | 進捗状況と見通し | 達成度<br>(評価) |       | 実施結果        |
| ○生徒指導の充実             | ○誰にでも「あいさつ・返事」ができる児童の育成 | ○「児童はあいさつ・返事ができている」と回答した教員、保護者を85%以上にする。 | ・小中で共通目標を掲げて、あいさつに取り組む。<br>・生徒指導協議会の協議の柱とし、取組を振り返る場を作る。<br>・学校・保護者・地域と連携してあいさつ運動を行う。<br>・学期始めに「あいさつ」に関する生活目標を掲げて各クラスで取り組んだり、児童会が中心となって全校であいさつ運動に取り組んだりする。<br>・小中合同生徒指導協議会を開き、4つの重点目標について共通理解を図り、発達段階に応じた取り組みを協議する。 |             |          |             |       | 育ち部<br>生徒指導 |

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

|                |  |
|----------------|--|
| 5 総合評価・次年度への展望 |  |
|----------------|--|